J-WIP 活動報告

企画担当理事

2025年4月16日、ワシントンDCで働く女性を応援するJ-WIP（※）による第29回目のスピーカーイベント「Navigating Policy Shifts: The Trump Administration's Approach to DEI and ESG（政策転換を乗り切る方策：トランプ政権のDEIおよびESGへのアプローチ）」を開催いたしました。

当日は、コンサルティング会社、ロック・クリーク・グローバル・アドバイザーズでマネージングディレクターを務め、多国籍企業に対して国際金融規制、サステナビリティ、国際経済政策等幅広く助言を行っている、キャサリン・K・マーティン氏を講師として迎え、米国におけるDEI（多様性・公平性・包括性）およびESG（環境・社会・ガバナンス）政策の変化等について、自身の経験に基づく示唆に富んだ見解を披露いただきました。

会場には男女問わず、25名の商工会会員・非会員が集まり、活発な意見交換が行われました。

キャサリン氏は、米国証券取引委員会（SEC）で約20年間勤務され、特に2015年から2021年までは、SEC国際局局次長を務め、国際規制政策および監督協力プログラムを統括し、金融安定理事会（FSB）や証券監督者国際機構（IOSCO）の委員会、米欧金融規制フォーラム、米英金融規制作業部会などの多国間・二国間の枠組みにおいてSECを代表しました。

また、SECに入局する以前は、サリバン・アンド・クロムウェル法律事務所およびホーガン・ロヴェルズ法律事務所にて証券・企業法務を手がけていました。

本イベントではまず、ウクライナ出身のキャサリン氏が、米国に移住した当初の苦労や、弁護士の道を選ぶことになった経緯、またSECの弁護士として活躍するまでのキャリア形成から、SECの成り立ちや機能もご説明いただきました。

さらにDEI政策とESG政策の発端から、バイデン政権による展開、国内の反応、欧州など海外の動き、バイデン政権による政策の反動として現在進められているトランプ政権の政策と主な特徴について解説されました。海外にも適用されつつあるトランプ政権の方針に、日本企業がどのように対応すべきかアドバイスもいただきました。

また故郷のウクライナで続くロシアとの戦争について、個人的な想いも参加者と共有されました。

今回のイベントは、米国のDEI/ESG政策が政権交代で大きく揺れ動く中、企業がとりうる対応について考察する非常に貴重な機会となりました。

（注）当イベントは原則オフレコでしたが、公表情報を基に講師の承認を得た情報を盛り込んでいます。

※J-WIP(Japanese Women in the Professions in Washington DC)： ワシントン地区で働く日本女性へのキャリア育成支援活動。2016 年 1 月から、ワシントン日本商工会として支援。